

キャビテーションプラズマ装置の開発と応用

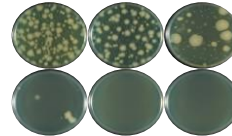
工学研究科 電気物性工学専攻 岡 好浩

キーワード キャビテーションプラズマ、液中プラズマ、分散、合成、分解、殺菌

研究概要

キャビテーションプラズマ装置は我々が独自に開発した液中プラズマ装置です。キャビテーション現象によって発生させた溶媒成分の微小気泡内に低温プラズマを高繰り返し(1秒間に40万回)で生成するため、反応面積が広く高速に処理することが可能です。また、装置の大型化も容易であり、実用化が見通せる技術です。

様々な分野への液中プラズマの真の実用化を目指して、キャビテーションプラズマ装置の開発・改良、キャビテーション現象の解明、放電現象の解明のような基礎的な研究から、難分散性粉体の水分散、金属ナノ粒子の合成、難分解性有害有機物の分解、ウイルス・細菌の殺菌、それらを用いた応用研究まで幅広く取り組んでいます。

CNT分散**銀ナノ粒子合成****大腸菌殺菌****メチレンブルー分解**

アピールポイント

従来の装置に比べて、高速かつ大量に液中プラズマ処理が可能です。これまでに従来の液中プラズマを用いて研究開発され、優れた結果が得られているにもかかわらず、処理能力の低さから実用化をあきらめていた方はぜひ一度ご相談下さい。難分散性粉体の水分散(分散剤フリーまたは大幅に低減)、金属ナノ粒子の合成、ウイルス・細菌の殺菌、難分解性有害有機物の分解など多数の共同研究の実績があります。

応用分野

分散(インク、塗料、医薬品、化粧品、高性能電池、機能性樹脂)、合成(触媒、抗菌剤、色材、化粧品)、分解(高度水処理、洗浄)、殺菌(水処理、食品、農業)